

令和8年度 東京都立葛西南高等学校 学校経営計画（全日制）

校長 花崎 敦子

1 目指す学校

(1) 教育目標

自主：自ら判断し、律して行動する
創造：豊かな創造力で未来を拓く
連帯：愛と責任をはぐくむ

(2) スクール・ミッション

自ら判断し律して行動する「自主」、豊かな創造力で未来を拓く「創造」、愛と責任を育む「連帯」を教育目標として、習熟度別授業や学校行事、地域貢献活動の実施を通して、基礎学力や規範意識を伸長し、自立した信頼される社会人として活躍する生徒を育成します。

(3) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

20年後の社会において本校の卒業生が、広い視野を持ち、社会人として信頼され、自立した人間、互いを思いやり、助け合いながら、社会の中での自己の能力を生かし、役割を果たす強い気持ちと行動力を備えた人間となるよう育てる。

イ カリキュラム・ポリシー

① 社会で必要とされる基本的生活習慣と規範意識の育成

- ・集団の中でのルールについて自ら考え、ルールを守ることによって仲間・集団のよりよい活動につなげることができる。
- ・社会の中の問題解決に向け、自治会や地域をまとめ、仲間と協働できる。

② 社会で活躍するための一定水準以上の基礎学力の定着

- ・卒業後の仕事や学習に支障なく自らの能力を発揮することができるとともに、自ら課題を発見し、効果的・効率的に課題の解決方法を導き出すことができる。
- ・基礎学力の定着のため、数学科・外国語科（英語）における習熟度別授業、国語科における少人数制授業をおこなう。
- ・多様な進路を実現し、活躍する人材のために、3年生での必修選択・自由選択で幅広く選択科目を設定する。

③ 社会で生き抜くための思考力・判断力・表現力・対話力の育成

ウ アドミッション・ポリシー

本校は、主体的に行動し、社会に貢献できる若者の育成を目指して、基礎学力と規範意識の定着を重視している学校です。幅広い進路選択に対応できる充実異したカリキュラムを用意し、きめ細かな進路指導を実施しています。また、行事や部活動も、広大な敷地や恵まれた施設・設備を利用して活発に行われています。本校では以下のような生徒を期待します。

① 生活面では、時間やルールを守り、「挨拶する」などのマナーを身に付け、しっかりとした集団生活を送ることのできる生徒

② 学習面では、成績優良を目指し、苦手な教科があってもあきらめずに努力するなど、真剣な態度で主体的に学習活動に取り組む生徒

③ 学校行事や生徒会・委員会活動に積極的に取り組み、特別活動や部活動を通じて、社会性を身に付け、自立しようとする生徒

④ ボランティアや社会の活動に参加するなど、積極的に地域に貢献する生徒

⑤ 将来についてよく考え、資格・検定取得に励むなど、進路実現に向けて惜しまず

努力する生徒

※特に推薦選抜においては、上記①、③、④のいずれかに該当する生徒が望ましい。

2 中期的目標と方策

(1) 自立した信頼される社会人として活躍する生徒を育てる学校

ア 中途退学防止につなげるための校内指導体制の確立

イ 規範意識を醸成するための校内指導体制の確立

ウ 基礎学力を定着・向上させるための指導体制の確立

(2) 自ら考え行動し、互いを尊重しながら仲間と協力して課題解決に取り組むことができる力を

育成する学校

ア 学校行事の充実

イ 生徒会・委員会活動の充実

ウ 部活動の充実

(3) 生徒が自分の可能性に気づく機会をつくり、新しいことへの挑戦を支援する学校

ア 就職から大学進学まで全方位型の進路指導の充実

イ 資格取得や検定試験への挑戦を支援する指導体制の確立

ウ グローバル人材の育成

エ DXハイスクール指定を活用したデジタル人材の育成

(4) 「総合的な探究の時間」を核とした、生徒の主体的に学ぶ意識の向上と、教科連携による思考力・

判断力・表現力を育成する学校

ア 「総合的な探究の時間」の充実

イ 「総合的な探究の時間」と連携した教科横断的な指導体制の確立

(5) 学校の魅力を保護者や地域に対して積極的に発信する学校

ア 生徒による地域貢献を推進する校内体制の確立

イ 学校訪問・HP・SNS等の活用により学校の魅力を発信する校内体制の確立

(6) 教職員が協働して目標に向かうことができる学校

ア 学年・分掌間の業務分担の見直し

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

① 「探究的な学習の時間」と連携して、「主体的・対話的で深い学び」を促す授業を教科横断的に展開する。

② 一人1台端末の活用等、デジタル技術を活用した学習指導を推進する。

③ 生徒の実態や学習能力に応じた、組織的な指導体制を構築する。

④ 新学習指導要領に基づいたカリキュラムと観点別評価を適正に実施する。

⑤ 各教科で年間授業計画を作成し、徹底した基礎学力の定着を図るとともに、生徒の進路希望と学習段階に応じた学習指導に取り組む。生徒にできた喜びやチャレンジする姿勢を身に付けさせる。

⑥ 民間教育産業の進路診断や学力向上研究校の取り組みを活用して、生徒個々の課題

と目標を明確にし、日々の学習活動に取り組ませる。

- ⑦ 全校生徒に読書に親しむ機会を与える。

イ 生活指導

- ① 安全・安心な学校生活を確保することで、生徒が落ち着いた生活ができる学校づくりを行う。
- ② いじめ防止等の対策を一層推進する。
- ③ 規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立を目指す。
- ④ 登下校指導等を活用し、活気あふれる挨拶のできる学校づくりを目指す。

ウ 進路指導

- ① キャリア教育を組織的に実践し、1年次から計画的・段階的な進路指導を行う。
- ② YSW との連携を深め、ジョブサポーターなどの外部機関とも連携し、生徒の進路希望を見据えた組織的な進学対策・就労支援を行う。
- ③ インターンシップを通して社会で自己の果たす役割を自覚させる指導を行う。
- ④ 自己について、また、多様な他者のありようについての理解を深め、課題解決に向かう力を高めるため、「総合的な探究の時間」や国際教育の充実を図り、広く社会に開かれた教育活動を実施する。

エ 特別活動

- ① HR 活動や学校行事、生徒会活動、部活動、奉仕活動等を行い、生徒の自己有用感や社会性を高める。
- ② 地域の交通安全活動、ボランティア清掃や町会・区の行事への参加を促し、地域社会に参加する責任と奉仕を重んずる態度を育成する。
- ③ 東京2020レガシーを推進し、多様な文化を受け入れる国際感覚を備えた生徒を育成する。

オ 健康づくり

- ① 学校の教育活動全体を通し、生徒の体力向上を目指す。
- ② SC や YSW を活用し、多様な生徒に対応した組織的な教育相談体制を確立する。心と体の健康づくりへの組織的な取り組みを行う。

カ 募集・広報活動

- ① 積極的に学校情報を発信し、募集・広報活動の活性化を図る。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心に、主幹教諭、学年・分掌主任、経営企画室が一体となった学校運営体制を構築する。
- ② 「カリキュラムマネジメント委員会」を中心に、中長期的な学校経営目標及び課題解決のための具体的な方策を検討する。
- ③ 校内研修の充実、目指す学校像及びグランドデザインの共通理解を図り、一貫した協働的指導体制を確立する。
- ④ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

(2) 重点目標と方策

ア 学習指導

- ① 「総合的な探究の時間」と連携し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業の充実を図る。グループ学習、調べ学習、発表活動等により、思考力・判断力・表現力を育てる学習活動を充実させる。
- ② スモールステップを取り入れ、学習状況を確認する発問や小テスト等により、個に応じた指導を行い、基礎学力の定着を図る。

- ③ 校内研修会や教科会、科目担当者間の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現や ICT のさらなる活用に向けた組織的な授業力の向上を図り、指導と評価の一体化を進める。
- ④ 学年と教務部が連携して、基礎学力に課題のある生徒や、学習意欲の高い生徒への講習を開講する。進学希望者に対して発展的な課題を与え、放課後等を活用した進学対策講習を実施する。
- ⑤ 第1学年生徒の内、基礎学力の向上が必要な生徒を対象に、学力向上研究校（校内寺子屋）の取組を活用し義務教育段階レベルの学力を向上させる。
- ⑥ 基礎学力診断テスト（年3回）を活用し、生徒の学力分析を行い、基礎学力の向上を図る。
- ⑦ 「読書ホームルーム」や「読書マラソン」を行い、多読者表彰を年1回行う。
- ⑧ 生徒の実態や学習能力に応じた指導を実施するために、評価や教育課程・校内規定の点検や検討を進め、不断の見直しを行う。

<数値目標>

項 目	7年度目標	7年度実績	8年度目標
生徒による授業評価において、本校の授業はわかりやすいと感じる生徒の割合	85%以上	84.5%	85%以上
授業内で生徒間の対話を実施した教員の割合	80%以上	83.2%	85%以上
授業内で ICT 機器を活用した教員の割合	80%以上	71.7%	80%以上

イ 生活指導

- ① 全教職員が「生活マニュアル」を共有した生活指導を行い、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを目指す。
- ② 校則については、引き続き生徒・保護者との意見交換を行い、継続して見直しを図る。
- ③ 毎朝の登校指導により、遅刻、頭髪、服装、駐輪・交通安全指導を行うとともに、チャイム始業、終業を徹底し、授業規律を維持する。また、身だしなみ指導を全校体制で実施する。
- ④ 自転車乗車時のヘルメット着用指導に取り組む。
- ⑤ いじめ・体罰調査を実施し、いじめ・体罰の未然防止、早期発見、早期対策を組織的に行う。
- ⑥ 教職員全員が、生徒への声かけを行い、自然に挨拶ができる雰囲気醸成する。

<数値目標>

項 目	7年度目標	7年度実績	8年度目標
1日平均遅刻人数	各学年15人未満	17.8人	各学年15人未満
校則遵守に対する生徒の肯定的意見の割合	80%	83.2%	85%以上

ウ 進路指導

- ① キャリアパスポートを作成して生徒のこれまでの進路活動と卒業後を見据えた進路

指導を行い、原則、就職、大学、専門学校の3つの指導グループ体制をとり、「スキルアップ推進校」指定を活用し、きめ細かく指導する。

- ② 大学進学を希望する生徒への指導を、進路指導部と学年の連携の中で組織的に行う。そのために、各学年と進路指導部の連携によるガイダンス機能を充実させるとともに、受験準備学習や各種資格・昇段試験の奨励と指導を行う。
- ③ 漢字検定全員受験を継続するとともに、英語検定受検を2・3学年の2個学年に拡げる。また、数学検定・情報検定の取得も推進する。
- ④ 国際ロータリークラブ、区産業振興課、ジョブサポーター等、地域や外部専門機関の協力や、インターンシップを実施するなど、組織的な進路指導を実施する。
- ⑤ 自己について、多様な他者のありようについての理解を深め、課題解決に向かう力を高めるため、「総合的な探究の時間」や国際教育の充実を図り広く社会に開かれた教育活動を実施する。

<数値目標>

項 目	7年度目標	7年度実績	8年度目標
進路決定率	95%以上	95.9%	95%以上
就職者数	30名（内公務員1名）	32名（6名）	30名（5名）
私立大学合格者数	45名	50名	45名
私立大学（日東駒専）合格者数	4名	3名	4名
情報検定合格者数	50名	10名	50名
漢字検定合格者数	20名（内準2級2名）	21名（2名）	20名（2名）
英検合格者数	30名	12名（内2・準2級10名）	20名（10名）
長期休業中の講習	20講座以上	17講座	20講座以上
学校評価で進路情報提供への肯定的回答	80%以上	84.2%	85%以上

エ 特別活動

- ① 学校行事、生徒会活動をより充実させ、部活動加入を促進し、達成感や満足感を体験させることで、主体的に活動することの意義を感じさせる。
- ② 年間を通し奉仕活動等、地域貢献活動に取り組み、地域に愛される学校づくりを目指す。

<数値目標>

項 目	7年度目標	7年度実績	8年度目標
体育祭文化祭満足度	90%以上	85.8%	90%以上
部活動加入率	50%以上	49%	50%以上
部活動満足度	80%以上	74.4%	80%以上

オ 健康づくり

- ① 月間目標を立て、生徒の体力に応じた自己目標を設定させ、体育の授業に基礎トレーニングを課し体力向上を目指す。
- ② 自立支援チーム継続派遣校としての支援体制を生かし、特別支援教育・教育相談

の充実を図り、YSW や SC、外部専門機関との連携を深め、早期の生徒課題の把握に努め、中退者数の減少を図る。

- ③ 病気やいじめ被害により教室で授業を受けることが難しい生徒等を対象にオンライン授業のルールや環境を整備する。

<数値目標>

項 目	7 年度目標	7 年度実績	8 年度目標
中途退学者数	2 0 名未満	1 7 名	2 0 名未満

カ 募集・広報活動

- ① 教務部の企画による全校体制での組織的・計画的・戦略的な生徒募集対策と広報活動を推進する。
- ② 志望者の多い地域の中学校等を積極的に訪問し、本校の魅力を効果的に伝達する。
- ③ 学校説明会、学校見学会等の企画について生徒を中心として充実させるとともに、本校の魅力を効果的に伝達する。
- ④ ホームページや SNS を活用し、きめ細かな情報発信を行い、本校の教育活動の魅力を積極的に発信する。

<数値目標>

項 目	7 年度目標	7 年度実績	8 年度目標
中進対策志望調査の倍率	1 . 0 倍以上	0 . 6 5 倍	1 . 0 倍以上
入学選抜倍率	1 . 0 倍以上	0 . 7 9 倍	1 . 0 倍以上
学校見学会等来校者数	7 2 0 名	8 2 4 名	8 8 0 名
HP 更新回数	2 5 0 回	2 5 0 回	2 5 0 回

キ 学校経営・組織体制

- ① 教職員が一体となって生徒指導にあたる組織づくりを目指す。
- ② 相互授業参観を全教員により実施し、研究協議と全体授業研修会を行う。
- ③ 教員対象に体罰防止、いじめ防止、服務事故防止研修等を実施し、規律の遵守を定着させる。
- ④ 分掌等の支援による学年業務の軽減など、相互に協力しあう職場風土の醸成に努めるとともに、デジタル技術を活用して教職員間の情報共有に努め、企画調整会議、職員会議の効率化と会議時間の短縮を図り、ライフ・ワーク・バランスを推進する。また、長期休業日中における休暇取得の促進と定時退校を推進する。

<数値目標>

項 目	7 年度目標	7 年度実績	8 年度目標
公開研究授業と研究授業の振り返り研修会年 2 0 回以上	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %